

豊田五郎略年表

豊田修一・林葉子 編

和暦	西暦	年齢	豊田五郎の生涯および関連事項	備考
T7年1月5日	1918	0	熊本県熊本市で生まれる。父:壽三郎、母:ハル。熊本市の豪商「もずや」(繊維問屋)の9人兄弟の8番目(5男)。	
T13年9月	1924	6	母ハル死去	
S5年4月	1930	12	熊本県立商業学校入学	
S10年3月	1935	17	同卒業	
S10年4月	1935	17	官立長崎高等商業学校(現長崎大学経済学部)入学	射撃部に身を置く
S13年3月	1938	20	同卒業	
S13年4月	1938	20	第一銀行本店入行	
S13年～20年			新宿支店に転勤し、再び本店に戻る	
S18年4月	1943	25	第一銀行が国策で三井銀行と合併し帝国銀行となる	
S20年1月6日	1945	27	三山綾子と結婚	熊本で結婚式を挙げ、帯同して東京に戻る
S20年4月13日	1945	27	東京大空襲(第2次)に遭い、焼け出される(第1次空襲は3月に下町が被害)	文京区の借家で夜中にぐっすり寝込んでいたため火災に気が付かず、隣人(熊本天草出身のタクシーの運転手)にたたき起こされ、近くの中央公論?の社長宅の立派な防空壕に誘導され生き延びた。翌日、自宅に帰ってみたらきれいに焼けていた
S20年4月	1945	27	熊本に帰郷	数日銀行本店の宿直施設に寝泊まりしたが、銀行も機能不全に陥っていたため、命令を待たずに帰郷(切符は長蛇の列でやっと買い、列車の中では東京から熊本まで丸1日座れず立って帰ったとのこと)。熊本浄行寺町のもずや本店に転がり込む(しばらく後別宅があった宇留毛に転居した)
S20年5～6月	1945	27	熊本支店に復職	熊本に帰郷した後、上司であった係長の取り計らいで熊本支店に復職
S21年6月20日	1946	28	長女照子生まれる	

S23年8月26日	1948	30	次女邦子生まれる	
S23年10月	1948	30	帝国銀行から第一銀行が分離独立する	
S25年正月	1950	32	第一銀行大阪支店転勤	三島寮からすぐ高槻市富田寮に転居
S25年7月	1950	32	父壽三郎死去	
S25年12月27日	1950	32	長男修一生まれる	
S25年1月～S34年7月			大阪支店→尼崎支店→大阪支店(時期は不明)	転勤と関係なく転居あり。ほとんど貸付係であったようだ。S27年(1952年)8月東灘区深江に転居S32年(1957年)8月西宮市甲子園に転居
S26年6月	1951	33	毎日新聞(6月1日付)に掲載された村山七郎氏(当時順天堂大学教授)の記事「契丹文字解読の方法」を読んで触発され、契丹文字研究を志す	
S34年7月	1959	41	東京本店書籍審査部に転勤。神田古書街で村山七郎氏の『言語研究』のコピーを入手し、契丹文字研究の足がかりとする	新宿区柏木町(現西新宿)に転居 審査部:全国各支店から支店長決済限度額を超えた貸付案件の稟議書を受け、その実行可否を審査する部署。
S37年	1962	44	「契丹隸字考」を執筆し、山路廣明氏(当時早稲田大学図書館勤務)の紹介で、村山七郎氏と面会する	
S38年	1963	45	村山七郎氏から岩井大慧氏(東洋文庫長)への推薦により、「契丹隸字考」が『東洋学報』6月号に掲載される	
S39年7月	1964	46	第一銀行福岡支店に転勤	次長に昇格
S40年	1965	47	東京都保谷市に自宅建築	
S42年	1967	49	第一銀行東京本店検査部に転勤	検査部:全国の支店が正常な業務を実施しているかどうか検査する部署。
S44年	1969	51	村田鋼業kkに出向	当時から定年前に取引先に出向させるのが通例になっていた。定年までの給与の差額は銀行持ちとなる。
S48年	1973	55	第一銀行定年退職。村田鋼業kk役員	取締役総務部長になる(主に経理。その他総務・庶務諸々)
S59年	1984	66	「契丹文字の日付について」(『京都産業大学国際言語科学研究所報』第6巻第1号)を发表する	
S60年	1985	67	「契丹小字ㄨの新解釈について」(『京都産業大学国際言語科学研究所報』第7巻第1号)を发表する	
S61年	1986	68	村田鋼業kk退職	

H元年	1989	71	東京から熊本に転居	
H9年	1997	79	「契丹文字 蒙古の万葉式秘密仮名」(『月刊しにか』vol.8/ No.6、大修館書店、1997年6月号)、および「契丹小字に保存された中古蒙古語の痕跡 永福と春秋と数詞」(『日中合同文字文化検討会講演資料』(遼寧省博物館、文字文化研究所)を發表する	
H19年4月	2007	89	大阪府池田市に転居	長男修一の隣家に転居
H23年1月14日	2011	93	逝去	